

第2回 優先的に整備する路線戸別訪問及びアンケート調査の結果

1. アンケートの実施概要

今回の戸別訪問では、前回の戸別訪問でいただいたご意見等を踏まえ、区が検討している2種類の道路整備手法をご提案しました。

ご提案した道路整備手法は「A案：建て替えに伴う建物の壁面後退により6mの空間を確保する」、「B案：建て替えの際に道路を6mに拡幅する工事を行う」であり、いずれも消防活動困難区域の解消に有効な手法ですが、道路用地買収の有無や、後退部分の敷地面積の扱いなどに差があります。

そこで、区からそれぞれの整備手法の違いや、実際の整備イメージを写真も用いてご説明し、特にA案（建物の壁面後退により6mの空間を整備する）について、アンケートでご意見を伺いました。

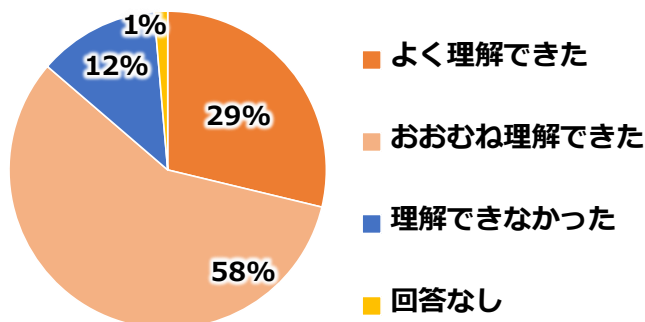
- 期間 令和7年9月29日～令和7年10月17日
- 訪問対象 優先的に整備する路線沿道の居住者および土地建物所有者等
- 配布数 302件（地区内：199件／地区外：103件）
- 回収数 73件（地区内：62件／地区外：11件）
- 回収率 約24.2%

2. アンケートの集計結果

※令和7年11月11日時点

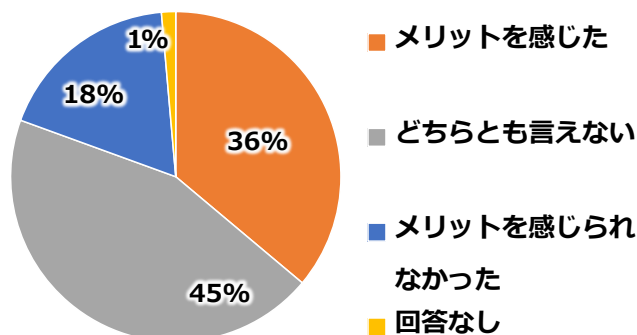
【問1】

全体を通して、壁面後退による道路整備のイメージ（A案）は理解できましたか。



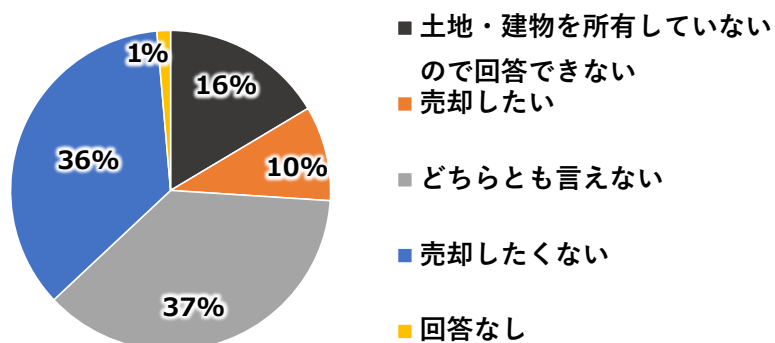
【問2】

「優先的に整備する路線」について、道路拡幅工事を行う場合（B案）と比較して、壁面後退により6mの空間を整備する場合（A案）にメリットを感じられますか？



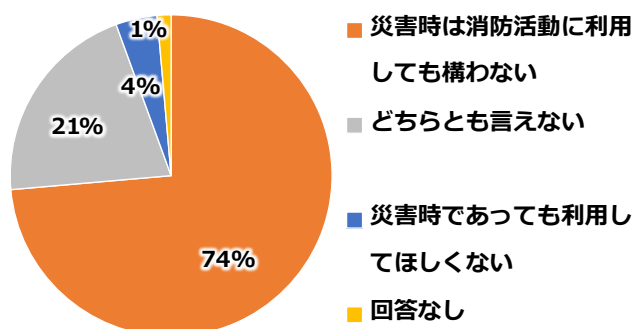
【問3】

壁面後退した空間を、B案のように区に売却したいというご希望はありますか。



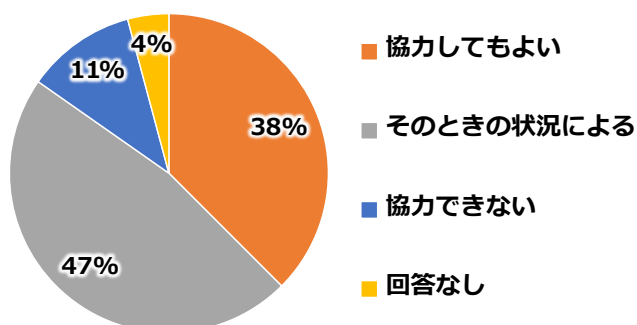
【問4】

「優先的に整備する路線」について、壁面後退により6mの空間を整備する場合（A案）、後退した部分を災害時の消防活動などに利用することについて、どのように感じられますか？



【問5】

将来的に区が道路拡幅整備を行う場合は、事業にご協力いただけますか。



3.アンケートを受けて

A 案のイメージは87%の方にご理解いただき(問1)、B 案と比較して「メリットを感じた(36%)」方が「メリットを感じられなかった(18%)」方を上回りましたが、「どちらとも言えない(45%)」と回答した方が最も多い結果となりました(問2)。

B 案のように道路後退部分を区に売却したい方は8%(問3)、将来的な区の道路拡幅整備に協力してもよい方は38%(問5)にとどまりましたが、A 案で後退した部分を災害時の消防活動などに利用することについては74%の方の賛同を得ることができました(問4)。

全体として、当地区では道路用地買収を希望される方は少なく、A 案にメリットを感じる方が比較的多い結果となりました。一方で、今回の戸別訪問だけでは、どちらの案がよいか判断できない方も多くいらっしゃいましたので、今後も道路整備手法についてのご説明を続けてまいります。